

2018.1.04 No.13



えんしゅうびょういん 情報紙

あけまして
おめでとうございます



*** お昼に飲むお子様の薬について！**

【薬剤科】

〈はじめに〉

お子様が幼稚園へ行ってる間の薬はどのように飲ませればいいのでしょうか。

施設にもよりますが、保育園や幼稚園で園児に対する与薬（薬剤を与えること）を行っていないところはあります。

与薬を行っている施設でも与薬申請書の提出や薬の分別・記名が必要であったり、手続きが煩雑な場合がほとんどです。

受診時に昼の薬を飲ませ難いことを説明すれば、薬の飲ませ方を変更して貰えることもあるため、まずは医師や薬剤師に相談をしてみましょう。

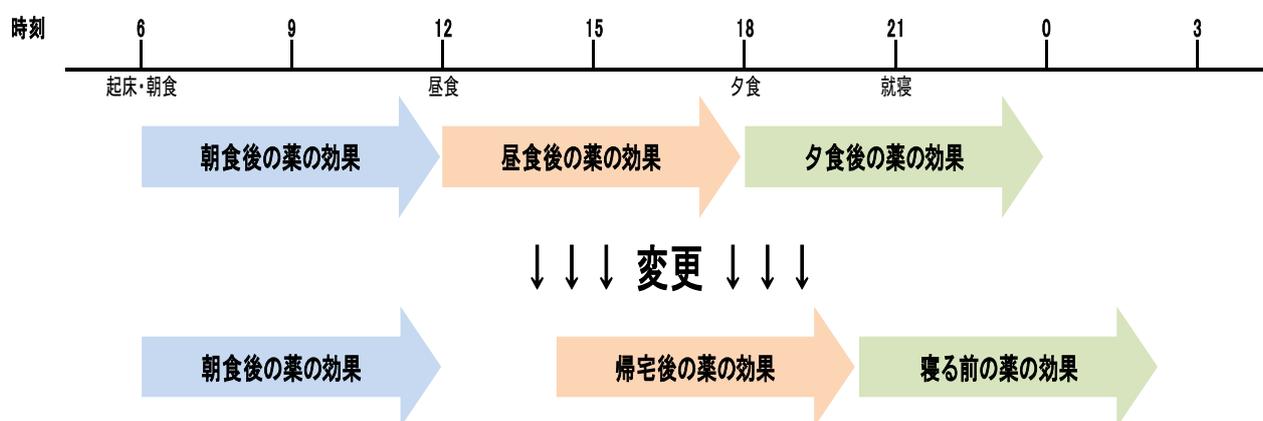
<薬を飲ませる時間について>

風邪薬等として小児に処方される「日局チペピジンヒベンズ酸塩（商品名：アスベリン散 10%等）」や「日局 L-カルボシステイン（商品名：ムコダイン DS50%等）」は、朝昼夕食後で処方されることが多いのですが、添付文書（お薬の説明書）では「1日3回に分割経口投与」としか記載がなく、絶対に食後でなければいけない薬ではありません。

チペピジンヒベンズ酸塩は咳止めとしての効果が約5～6時間持続するため、例えば朝食後6:00に薬を服用、幼稚園に行ってから帰宅して14:00に服用、寝る前の20:00に服用という飲み方でも問題ありません。（裏面図1）

ただ、薬によっては食事の影響を受け、「食前」や「食後」でなければならない薬もあります。

図1



幼稚園の時間が9:00～14:00でしたら図1のように薬の服用時間をずらせば大丈夫です。保育園ですと7:00～17:00のように幼稚園よりも時間が長いことが多いので、服用時間をずらすことが困難なこともあります。

そういった場合は受診時に医師に相談してみましょう。薬の服用回数を減らしたり、元々服用回数の少ない薬へと変更できるか検討してもらえないのでしょうか。多少時間が前後しても毎日3回飲むことが重要な薬もあれば、2回に減らしてもそこまで問題がない薬もあるため、生活スタイルに合わせた、より良い薬の飲み方を一緒に考えていきましょう。

<おわりに>

薬の種類によって効き方や効いている時間、食事の影響などは様々です。

昼の分の薬が飲ませられないからといって、自己判断で昼の分の薬を中止したり、服用時間をずらしたりせずに、まず医師や薬剤師に相談してみてください。

***取り上げて欲しい病気や検査、質問等がありましたら、投書箱やよろず相談窓口までお気軽に声をかけてください。企画の参考にさせていただきます。【監修:ふれあい編集部】**